



2022年2月14日

日本鉄道労働組合連合会

## JR九州労組第34回中央委員会

### 2022春闘・政治政策活動に一致団結して取り組もう！

JR九州労組は2月8日、福岡市内で「第34回中央委員会」を開催した。新型コロナウイルス感染症・感染拡大第6波が襲来していることに鑑み、リモート参加も交えての委員会運営となった。

主催者挨拶に立った芦原秀己中央執行委員長（JR連合副会長）は、冒頭、現下の情勢における委員会構成員らの積極的な参画に謝意を伝えた。そのうえで、「コロナ禍において、あらためて政治・政策活動に活発に取り組んでいく。また、職場から安全を創り上げ、効率化施策の推進について安全面から労組がチェック機能を果たしていく」と意気込みを語った。さらに、「組合員と家族に安心を取り戻すべく、中長期的な視点で人への投資を求め、2022春闘に全組合員が一致団結して取り組もう」と呼び掛けた。

来賓としては、本年夏の第26回参議院議員選挙に立候補予定の「JR連合“21世紀の鉄道を考える議員フォーラム”」所属の川合孝典参議院議員とJR連合の相良夏樹組織部長が出席し、それぞれコロナ禍における対応等について述べ、挨拶を行った。



議事では執行部から当面の活動方針が提起されたが、基本的な方針は昨夏の定期大会で承認されていることから、下期に取り組みが発生する2022春闘と第26回参議院議員選挙の対応を含む政治活動のみ、あらためて提起された形となった。なお、今次春闘において副業に関する課題認識等を会社側に確認することや、会社業績次第では年度末一時金の要求を行うことについても提起がなされた。

これに対し、9名の中央委員らより、「賃上げは厳しい闘いであるが本部とともに地本も頑張る」「期末手当は現在過去最低水準であり、粘り強く交渉して欲しい」旨の交渉に対する激励の発言や、「単組として需要回復を各県に求めていったのは素晴らしい。支部としても支えたい」「支援した政治家がどういう活動をしているのかを把握することにも取り組みたい」と政治・政策活動に前向きに取り組んでいく旨の発言があった。

その後、執行部答弁を経て吉田祥司書記長が集約し、「今次春闘は厳しい闘いになるが、ベアにこだわり、グループ労組と一体となって取り組んでいく」と決意を述べるとともに、「人流の回復等、課題解決に向け、積極的な政策活動が必要。そのためにも政治活動が重要になる」と述べ、「組織の団結力で難局を乗り越えていこう」と力強く答弁し、満場一致の承認を受けた。

全ての議事が終了した後、最後に芦原委員長が団結がんばろうで委員会を締めくくった。